

**一緒に“助け合い”しませんか。
ボランティアに興味のある方
会員になろうという方、
社会福祉協議会打瀬地区部会にご連絡
ください!**

■ベイタウンの地域福祉事情

「地域福祉」と言ってもピンとこないという方が多いのではないのでしょうか。記者が自分なりに考えたところによると、かつて日本のどこにでもあった近所付き合い(映画「オールウェイズ 三丁目の夕日」のような?)がなくなり、プライバシーは守れるものの人とのつながりに欠ける世の中。これをなんとかしよう、孤立するのではなく、あたたかい人間関係のなかで誰もが助け合いながら暮らせる新しい仕組みをつくろうというのが「地域福祉」といったところでしょうか。

現在、この地域福祉を担う一番身近な存在が民生委員・児童委員さんです。民生委員・児童委員は、千葉市長の委嘱を受けた住民ボランティアで、受け持ちの地域(ベイタウンの場合は番街)の、高齢者、子育て家庭、障害者の状況を必要に応じて把握し、場合によっては相談に応じ、行政や福祉施設との橋渡し役を担います。ベイタウンでは18人が活動中。

そのなかのお一人、今年で4年目の花藤さんは18番街とファーストウィングを受け持ち区域。年に一度、65歳以上の方を対象に連絡を取り、情報の把握に努めています。現在、一人暮らしの方はお二人。「この方たちには日頃からお電話で安否確認は行っています。私が相談にのるケースはまだまだ少ないですね。ベイタウンの高齢者の方は積極的に、ご自分から保健福祉センターに問い合わせる方がほとんどです」

このように、民生委員・児童委員の活動は個人対個人の関係ですが、ベイタウンの民生委員・児童委員は本来の仕事のほかに、子育て中の親子が集う「子育てサロン」「敬老会」「オアシス談話会」「グランシニア食事会・茶話会」といった仲間づくりのイベントを、連合会やシニアクラブと協力して企画運営しています。番街で「茶話会」を実施しているところもあります。これは、子育て中のお母さん、高齢者、障害者といった家に閉じこもりがちな人たちに外に出て、楽しいひとときを過ごし、友だちと知り合う機会が必要との考えからです。月1回の「子育てサロン」には毎回約40人が集まり、他のイベントも盛況です。

シニアの立場からお話を伺ったひまわり会の古川さんは、ご自身はシニアクラブ、コーラス、グランドゴルフというように積極的に外に出て、友だちを作ってきました。それでも「歳を取ると段々淋しくなるのかなと思うこともあります。そういう時に声をかけてもらったり、楽しい催しがあれば、参加してみようという気持ちになる人もいると思います」と、こうしたイベントの必要性を感じています。

しかし、現状ではマンパワーも資金も足りません。「子育てサロン」の回数を増やしたい、お年寄りの「茶話会」を開催する場所を増やしたい、「CAP(子どもへの暴力防止)」の活動にも力を入れたい、障害をもった方のニーズに応えたい、ゆくゆくは高齢化にともない成年後見



「グランシニア食事会」(写真上)と「子育て



人制度の導入や食事サービスの充実を図りたい…と考えたときに、現在の体制では限界がありました。

■社会福祉協議会打瀬地区部会でボランティア募集、会員募集

そこで、街全体で地域福祉に取り組む組織として、平成19年10月に設立されたのが社会福祉協議会の「打瀬地区部会」(*1)です。これまで個々に活動してきた民生委員・児童委員、自治会連合会、シニアクラブ、ボランティアサークル(*2)などが協力体制を作り、それぞれの枠を超えて活動を充実させようというものです。

当面(平成19年度中)は、現在の「子育てサロン」や「茶話会」などの事業を「地区部会」の事業に移行する計画です。

「社会福祉協議会が機能するのは10年かかると言いますから、地区部会ができてすぐに何かが変わるということはないと思います。一番大きく変わるとしたら資金面。これまでイベントにかかる費用はそれぞれの団体の活動費から捻出してきたので、独立した資金が確保できるのは大きいですね」(花藤さん)

実際、活動資金は地区部会の母体である千葉市社会福祉協議会からの受託金・補助金が主体となりますが、会費(個人年会費200円)とい

う形での“賛同の意志表示”を重視し、入会に向けての働きかけも継続して行っていくそうです(4、5、8、10、12、17番街とマリノフォートは既に自治会として入会済み)。「今はお手伝いできないので入会だけでも」という方も、もちろん大歓迎。

ベイタウンは30代40代を中心とした若い世代で構成されているまちですが、10年後20年後、確実に高齢化は進みます。助け合いのニーズも急激に増えるはず。こうしたニーズに、行政に任せきりではなく「自分たちでできることは自分たちでやろう」と取り組むのが地区部会です。そのためには多くの住民の参加が必要です。

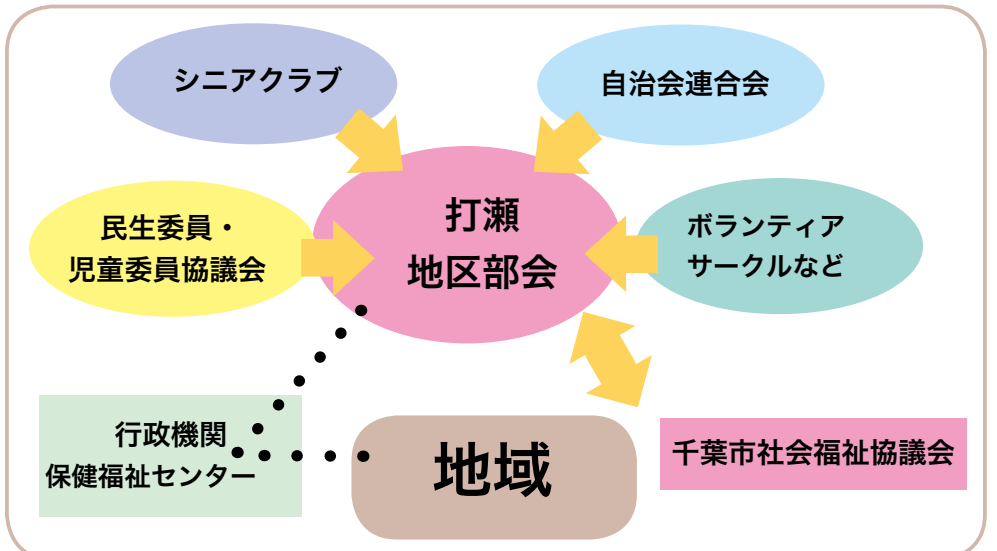
現在、地区部会として住民からボランティアを募り、「できる範囲でお手伝いしたい」「こんな特技・経験を活かしたい」「年に何回かだけなら協力できる」といった幅広い人材を受け入れ、ボランティア活動を行う他団体に対して、企画面・資金面でのサポートを行うなどして、マンパワーの底上げを図ろうとしています。…という大げさですが、一人でも多くと一緒に活動する仲間を増やそうと奮闘中。今後も、説明会を開いて、会員・ボランティアの募集を行っていく予定です。

【佐藤】

*1 社会福祉協議会は全国に設置されている民間の福祉団体です。千葉市では中学校区単位に地区部会があります。

*2 クリーニング清掃や「みはま園」慰問を行っている福祉団体

今回取材に協力いただいた花藤さん(写真左)と古川さん。お料理を作って人に喜んでもらうのが励みになるという古川さんは人助けのお手本のような人だ。ちなみにミラリオに「ニュース」を配ってくださるものもお二人。ありがとうございます!



移管問題を考える会便り

1月27日(日)午後、ベイトウンコアにて、自治会連合会主催のベイトウンの管理運営に関する第2回のシンポジウムが開催され、80名を超える住民が参加しました。今回は、このシンポジウムの模様を報告します。【板東】

第1部では、まず自治会連合会副会長の佐藤研二さんより、これまでの『幕張新都心住宅地区の管理・運営のあり方に関する研究会』の活動経過の報告が行われた。配布資料の中では、公園・緑地・植栽の清掃・剪定や、道路の補修、街路灯の点検など、街の維持管理の頻度を県企業庁の場合(現行)と千葉市の標準的な場合とを数値で比較した資料が開示された(ケースバイケースであるが、千葉市の標準が著しく劣っているという数値ではなかった)。また、今後の研究会での主題が、「管理運営の主体となるべき『住民協議会』がどういう組織であるべきか」また「それに関わる関係者(主に、住民、自治体、管理運営会社、専門家による評議会など)がどのような立場・役割で関与していくか」に移っていることが報告され、具体的なイメージについての検討資料も提示された。

続いて県企業庁の色部氏より、特に住民の関心の高いゴミ空気輸送システムの現状についての報告があった。本誌12月号でも既報のとおり、事業としては年間9,280万円の赤字であり、これを現在は県企業庁が「負担」している。この「負担」分を含めて企業庁から千葉市にどう移管するかが、この問題の焦点となっている(「情報公開して、広く住民の意見を聞きながら進めたい」とのこと)。なお、ベイトウンではゴミ空気輸送システムにより、安易なゴミ捨てが行われ、他地域よりもゴミ排出量が多いのではないかと危惧する声もあったが、これについては1戸あたり全市平均(246.91kg/年)よりも少ない(167.33kg/年)ことが確認できた。

第2部では、住民による自治管理の事例紹介が2件行われた。1件目は、千葉県富里市の『日吉台バードタウン』でのゴミ空気輸送システムの住民自身の手による管理の事例が紹介された。残念ながら講演予定者の病欠により当事者の声を聞くことはできなかったが、資料を元に、当初のデベロッパーの倒産により高コストのゴミ空気輸送システムの管理が住民と行政の間で宙に浮いてしまったこと、「緊急避難的対策」として住民自身により自主管理組織を結成し、各戸月額3,600円(その後運営改善等により3,000円に減額)を負担してシステムの継続を実現したこと、などが報告された。

2件目は、墨田区向島の『一寺言問を防災のまちにする会』の阿部氏により、防災を中心としたコミュニティ作りの事例が紹介された。同会の活動のきっかけは、「次に起こり得る大震災等の災害に、狭い路地と木造密集住宅という悪条件の地区がどうしたら生き延びられるか」という切実なものだったが、同地区の人たちはそれを単なる防災に止まらず、「まちづくり」「人と人とのコミュニケーションづくり」に活かしていった実績をユーモアたっぷりに聞かせてくれた。同地区は、ベイトウンの先進的な環境とはハードウェアとしては対局にあるが、「文句を言った人を活動に取り込む」「親しみやすい名称を工夫する」「表会合と裏会合(表の後の飲み会)を設けて、腹を割って語り合う」といったソフトウェアの秘訣を聞くことができた。「行政は30年スパンで物事を考えないが、住民は次の世代のために30年スパンで物事を考える必要がある。今の子供たちが30年後に親になったときに、良いまちだったと振り返れることをモットーに活動している」という言葉には、思わず頷く聴衆が多かった。

第3部では、先に行われたアンケートの結果報告が行われた後、主に住民組織の必要性・あり方に関する参加者全員による自由討議が行われた。「街に住んでいる人の姿が分からない。その姿が分からないと、どう進めて良いか分からない。それを明らかにする所から始めたら?」「ベイトウンにはこんな人が住んでいるという情報誌を有志を集めて作ってみたい?」「県企業庁にはハシゴを外された気分。平成24年に撤退することは当初から決まっていたことなのか?(回答としては、平成14年に「10年後に撤退」という方向性が出た。ただし、完全になくなるのではなく、後継組織はできる予定、とのこと)」「街の主役は住民。我々が管理して行くべき。組織も今考えられるもので見切り発車して、不都合があれば修正して行けば良い」「本当に「問題」はあるのか?ゴミ空気輸送システムを除いては、比較的満足の人が多いのではないか?」「ベイトウン全体をひとつのマンションと考えた組織作り賛成。積極的意見を出させるためにも住民にもお金を支出してもらった方が良いのではないか?」「アンケート結果は住民総意と考えて良いと思う。とにかく前に進むべき」「この会場にいる人は比較的この問題に対して意識の高い人。その他の人を取り込まないで見切り発車してしまっても良いかは不安」「住民と商店会の求めるものの両立は難しいかも知れないが、街としては店舗の賑わいも必要。管理運営機構には商店会も参画させてほしい」「本日の出席者を1本釣り組織に引き込んでいい?」など、多くの意見が出された。

大規模修繕工事体験談 (4)

パティオス10番街の大規模修繕工事もうよいよ最終段階に入った。このニュースが発行されている頃にはマンションを覆っていた白い幕もほとんど取り外され、10年前に入居した頃の美しい白いタイルの外観を取り戻しているだろう。この大規模修繕工事体験談もうよいよ今回が最後。そろそろネタも尽きてきたのでうまく締めくりたい。

【松村】

オプション工事はお得

我が家ではベランダに設置したエアコン室外機のうち、2台の調子が悪かった。1台は冷却力が落ち、もう1台はほとんど動かない。今回の工事ではエアコン室外機のガスチャージオプションがあり、点検もしてくれるとのことだったので、この2台の点検とチャージをお願いした。価格はそれぞれ8000円。

まず冷却力の落ちていた1台だが、こちらは予想したとおりガス不足の状態、チャージすると見事に蘇った。ただし通常は少量の補充で済むのだが、この室外機は「フルチャージ」になってしまった。技術屋さんのお話では、通常エアコンのガスは半永久的に使えるそう、ガスが抜けるには何か原因があるとのこと。調べてみるとホースにキズがあり、そこからガスが抜けほとんど空になっていた。設置してから触れたこともないホースからガスが抜けるのは、設置工事に問題があったのではということだった。

もう1台のほとんど動かなくなっていた方

だが、こちらはなんとバルブのネジが付いていなかった。設置の際に工事をした業者が付けたものらしい。

実はこの2台のエアコンは入居後しばらくして量販店で買ったものだった。2台ともエアコンが飛ぶように売れていた頃、シーズン初めに急がせて取り付けられた記憶がある。忙しかったので、恐らくアルバイトやにわか仕立の技術者が取り付けただろう。

この2台の修理は通常のガスチャージよりも料金がかり合計で30000円ほどの出費になった。しかしこの2台以外のエアコンも点検し、ガスが抜けていない分は料金もかからなかった。我が家としては家中のエアコン全てが30000円でリフレッシュされたことになる。

エアコンの他、アミ戸の張り替えもマンションでまとめて頼むので格安とのこと。大規模修繕工事の際にはオプションで行われる工事は検討してみるといい。

家族揃ってジグソーパズル

工事が終わりに近くなると期間中ベランダに置けなかった家財道具やガーデニング用品などを元に戻すことになるが、これが意外にたいへんだ。元々あったものを戻すのでスペースが足りない筈はないのだが、ものを戻すには元々あった場所が空いていなければいけない。ところがあらゆるものを部屋の中に詰め込んでいるので、その元の場所には当然別のものが・・・という具合で、家中がジグソーパズル状態だった。結局家族で知恵を出し合い議論しながらこの難しいパズルを解くことになるが、家中を舞台にした大規模ジグソーパズルゲームは最近対話の欠けていた家族との間に思わぬコミュニケーションの機会を与えてくれた。

そんなことをしているうち、ある日突然我が家のベランダや窓を覆っていた白い幕が外され、更に数日して足場も撤去された。1月の中旬だった。数ヶ月ぶりに部屋に差し込む太陽の光はまぶしく、公園で遊ぶ子どもの声はいつそう元気に聞こえる。汚れを落とし白さを取り戻したベランダから見るベイトウンの風景は新鮮で、12年前にはじめてこのベランダに立った日のことを思い出させてくれた。

もちつき大会で聞いた 白と杵物語

去る 1/13 (日)、ベイタウン恒例の新年もちつき大会がコア中庭で行われた。今年のもちつき大会では 3 本の新しく古い白と杵が加わり、にぎやかな大会となった。

実は今年の大会で近隣の町内会などから借りた白と杵が破損し、今年の大会は開催が危ぶまれていた。しかし、主催者である育成委員会が関係者に懸命によびかけたところ、古くから農家にあり、最近では使われなくなって眠っていたという白と杵 3 本の寄贈申し出があった。

関東から東北の農家では古くから敷地内にケヤキの木を植え、防風林などに使ってきた。ケヤキはとても固く、もちつきの白にするには絶好の材料だ。今回登場した白もそれぞれ年輪を重ねたケヤキで作られていた。中には曲がった木の形がそのまま白になったものもあり、市販品にはない興味をそそられた。3 本の白や杵は長く使われてきたものだけに、刻まれた年輪のように様々な物語を染みこませ。市販品にはない風格があった。

今回はそのうちの 1 つ。遠く仙台から昨年末にベイタウンにやってきた白と杵の物語取材した。

もちつき大会の会場には、1 本だけ使われずに置かれていた白と杵があった。キズの補修のため来年のもちつきのために養生させているのだという。この白と杵は打瀬小学校の佐々木先生が仙台の実家から車で運び、白と杵がなくてももちつきができないかも知れないと悩む育成委員会に寄贈された。

白は先生が生まれた 50 年前、長男の誕生を祝って先生の祖父が敷地内にあったケヤキを切って作られた。それから 30 年の間、先生の実家では毎年のように年の暮れにはもちつきの白として活躍してきた。先生も子どもの頃はこの白でついた餅を食べ、大きくなってからはこの白で餅をついたのだろう。



佐々木先生の白には立派な台座がついていた。長男の誕生を喜ぶおじいさんの顔が浮かぶようだ。後ろは青少年育成委員会君島さん(会長、写真向かって左)と秋元さん。「おかげでもちつきが続けられます。大切にに使わせていただきます」

しかし、20 年ほど前から農家では機械を使って餅をつくことが主流になり、先生の実家でもこの白が使われることはなくなった。そして、佐々木先生も千葉で小学校の先生になり、この白と杵のことは忘れていた。

そんなとき、白と杵が壊れ、恒例のもちつきができないかも知れないと地域の育成委員会が困っている事を聞いた。先生はすぐに実家の白を思い出したという。早速、昨年末に車で仙台の実家に帰り、なつかしい白と杵を載せて帰ってきた。「仙台の実家に帰るいい口実になりました。家でつかわれなくなり処分になっていた白と杵が子ども達の役に立てばとてもうれしいです」。

いま白と杵は先生の勤務する打瀬小学校で保管され、毎日子ども達と楽しく過ごす佐々木先生を見守っている。【松村】



こちらの白も育成委員会の会員から寄贈されたもの。同じく農家で使われなくなっていた白だという。

今年も出動 「シニアもちつき隊」

コアでのもちつき大会の他、今年もベイタウンではあちこちでもちつきが行われた。1/19 (金)には海浜打瀬小学校で、1/26 (金)には美浜打瀬小学校で、それぞれ 1 年生児童とお母さん達がベイタウンの「シニアもちつき隊」の協力で楽しくもちをついた。

「シニアもちつき隊」の小学校でのもちつきは今年で 2 年目になる。昨年は最初ということもあり、杵でもちをつくと白に手を入れてもちをとる 2 人の呼吸が合わず、なんとなく危なっかしい場面もあったが、2 年目の今回は日頃街のボランティア活動で気心

が知れたのか、すっかり調子が合っていた。子ども達との接し方も昨年よりずっと上手になった。小学校 1 年生の児童はシニア達には孫よりも更に若い世代。昨年はなにか壊れ物にさわるようなところがあったが、今年は子ども達にも積極的に声をかける。小学 1 年生のもちつきには普通は杵を振るときに手を添えてやっていたが、自分でやって見たそうにしている子がいると、「一人でやってみなさい」と声をかけ、できると褒めるなど「教育的指導法」(?)を実践していた。

千葉市の標語コンクールで打瀬中の 3 年生が最優秀賞に

昨年秋、千葉市全域で行われた「平成 19 年度 千葉市青少年相談員標語コンクール」で打瀬中学校 3 年生の植木千裕さんが最優秀賞を受賞した。受賞作品は「人と人 見えない糸が つないでいる」。

このコンクールは千葉市内の 3 年生全員が参加するもので、最優秀賞は文字通り最高位の賞。打瀬中では初とのこと。植木さんの作品は打瀬中 3 年生全員の作品から地域の青少年相談員が選び、応募した。

打瀬中からは他にも黒屋秀正君の作品が入選し、ダブル受賞となった。



もちつきの準備ができるまで、女の子たちにせがまれて「カゴメカゴメ」が始まった(美浜打瀬小)。

2 月のコア・イベント

2/16 (土) わくわくおはなし会 2 月の常設おはなし会
 時間：10:30～
 場所：ベイタウン・コア 工芸室
 寒いときにも心温まる、絵本や紙芝居、ゲームを用意しています。年齢制限・予約はありませんので、ぜひきてくださいね。

2/23 (土) 寺子屋工作ランド 「マイおはしをつくらう」
 時間：9:30～
 場所：ベイタウン・コア 工芸室
 ベイタウンのお正月に 10 番街のエントランス前に立っていた「門松」(かまづ)の竹を使って、自分だけのお箸(はし)を作ります。竹を小刀で削るのは楽しいよ。持ってくるもの：小刀、汚れたタオル(またはぞうきん)
 参加費：50 円(保険料)

2/24 (日) 第 59 回ファツィオリの会
 時間：9:30～11:30
 場所：ベイタウン・コア 音楽ホール
 月に一度のフルコンサートグランドピアノ「ファツィオリ」を弾ける会です。ピアノ以外、楽器や歌などの演奏も大歓迎です。非公開での参加も受け付けておりますのでお気軽にお申し込み下さい。申し込み締め切り：2 月 17 日(日)